

MIS 人工関節置換術

糸満盛憲，占部 憲，高平尚伸 ● 訳

〔評者〕内藤正俊（福岡大教授・整形外科）

膝関節と股関節に対する人工関節置換術は整形外科領域で最も成功し，進歩し続けている代表的な治療法である。米国の統計では1994年に行われた人工関節置換術は合計333,000例（人工膝209,000例，人工股124,000例）であったが，2004年には2倍以上の712,000例（人工膝478,000例，人工股234,000例）になっている（National Hospital Discharge Survey）。わが国でも同じ傾向にあり，最近では人工関節置換術を年間数百例以上行う施設が稀ではなくなっている。手術例数の増加とともに手術方法にも工夫や改良が重ねられている。特に最小侵襲手術（minimally invasive surgery：MIS）の概念の導入は，人工関節置換術に新たな発展をもたらしている。

筆者も後側方アプローチによるMIS人工股関節置換術を行っていたが，さらに他のアプローチによるMIS人工股関節置換術の導入を数年前に思い立った。実施に先だって手術に役立つ書籍を検索したが詳しく書かれたものは見出せなかった。そこで，エキスパートのいる施設での見学を計画し，2005年10月に北里大学病院で糸満盛憲教授執刀による仰臥位前方アプローチMIS人工股関節置換

術に手洗いさせていただいた。最小の皮膚切開と無駄のない皮下の展開，白蓋コンポーネントの設置や脚長差のチェックの容易さ，出血量の少なさ，手術時間の短さ，術後のX線で確認された完璧なインプラントのアライメントなど見事なMISに感動したのをよく憶えている。

インターネットやマスコミによる影響もあり，MIS人工関節置換術への要望が今後さらに強まっていくと予想される。折も折，MISに関する最新の情報を満載した『MIS人工関節置換術』の日本語訳版が上梓された。MISに精通した海外の7名の編集者が股関節と膝関節でのMISの必要性・歴史・原則，さまざまなアプローチ，将来の展望などを8部構成で包括的にまとめ，北里大学整形外科の糸満盛憲教授，占部憲准教授，高平尚伸講師の3名により訳されている。実際の手術に役立つよう術中写真や図が豊富に提示され，複雑な手術手技もわかりやすい日本語で記載されている。コンポーネントの正確な設置のためのコンピュータ支援整形外科手術（computed assisted orthopaedic surgery：CAOS）についても随所に取り上げられ，MISでの術中の大混乱（CHAOS）を防ぐ手立てと



しての将来性も議論されている。

本書の序で述べておられるようにMIS人工関節置換術はまだ発展段階にあり，明確なエビデンスに乏しい。しかし，通常的人工関節置換術と同じ成績が得られるのであれば，より低侵襲の手術が患者にとって福音となる。関節外科医やこれから関節外科をめざす若い先生方は，ぜひ本書をMISの実用書として役立てていただきたい。

A4/頁304/2007年

定価12,600円（本体12,000円＋税5%）

医学書院刊